

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 25 No.9 2023年5月15日

製品・サービス動向-国内

■アバー・インフォメーション：4K 出力対応・音声自動追尾機能を搭載した WEB カメラ「CAM570」を新発売

(PRTIMES：5月9日)

アバー・インフォメーション株式会社 (<https://jp.aver.com/default.aspx>) (東京都新宿区) は、4K 出力対応、音声自動追尾機能を搭載した、ハイグレード WEB カメラ「CAM570」の販売を開始した。



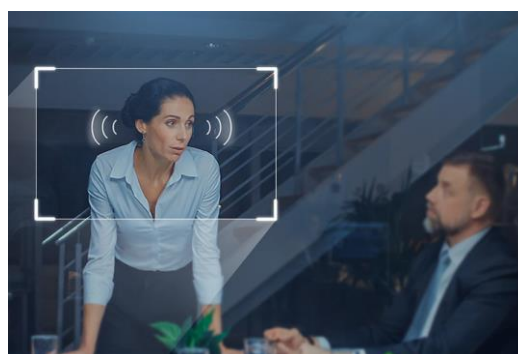
ハイグレード WEB カメラ「CAM570」
(アバー・インフォメーション)

WEB カメラ「CAM570」は、内蔵の音声検知センサーによる「音声自動追尾」機能や、光学 12 倍ズームを搭載。3 系統 (USB/LAN/HDMI) の接続に対応しており、会議・音響システムとの組み合わせに最適という。

音声自動追尾機能は、音声を検知し、自動で発言中の人物に対して、カメラのパン・チルト・ズームを行うため、カメラ位置のプリセット登録なしで自動追尾による撮影が可能となっている。また、外部マイクシステム、そして CAM570 と専用ソフトウェア「PTZ

App2」を組み合わせることで、外部マイクシステムで検知した音声によって、発言者を自動的に追尾・撮影する音声自動追尾システムを構築することもできる。

なお、対応している外部マイクシステム (2023 年 5 月現在) は、Shure 社製「MAX310/710/910 Microphone」、Sennheiser 社製「TeamConnect Ceiling 2 Microphone」、ヤマハ製「RM-CG Ceiling Array Microphone/ RM-TT Tabletop Microphone」。



音声自動追尾機能を搭載 (アバー・インフォメーション)

その他の機能としては、参加者を個別表示する「スマートギャラリー」機能。映像内の複数人の参加者の顔 (または上半身) を切り出し、個別表示するもの。これにより、この参加者の表情・反応がよく見えるので、Web 会議にありがちな相手の表情・反応が見えにくいといった課題の解消に役立つとしている。

また、HDMI 出力時の OSD 表示機能にも対応した。CAM570 には OSD (オンスクリーンディスプレイ) 機能が搭載されており、WEB カメラと HDMI で接続したモニターに設定画面を表示できるため、PC を介さず WEB カメラの詳細設定を行うことができる。



スマートギャラリー機能（アバー・インフォメーション）

アバー・インフォメーションは、2008年に台湾で設立。本社のある台湾の他に、日本、韓国、中国、米国、ドイツ、タイ、イギリス、オランダ、スペイン、フランスなど11カ国に営業拠点をもち、高い世界シェアを誇る書画カメラをはじめとして、リモートカメラ（ProAV）、充電保管庫、テレビ会議システム、Webカメラなどの製品を、世界100カ国のマーケットに向けて提供販売している。

■サンワサプライ：最大2台までワイヤレス連結できるBluetoothスピーカーフォンを発売、連結使用で拾い会議室や中～大人数での使用に最適

（PRTIMES:5月8日）

サンワサプライ株式会社（<https://www.sanwa.co.jp/>）（岡山市北区）は、高性能マイクとスピーカーを搭載した、最大2台までの連結に対応するBluetoothスピーカーフォン「MM-BTMSP5」を発売。

MM-BTMSP5 本体を追加することで、最大2台まで連結を行えるようになっている。1台使用時の推奨人数は8人から10人で、2台使用することで推奨人数が15～20人に増えるため、中～大人数での会議におすすめという。また、ワイヤレス連結であるためケーブルが邪魔にならないメリットもある。

本体集音範囲約5mの高性能マイク8個と高出力の

8Wスピーカーを搭載している。自分の声を相手に届けるだけでなく、相手の声もしっかり聞きとることができる。

Bluetooth（Bluetooth 5.3）での接続に対応しており、持ち込んでさまざまな場所で会議ができる。また、パソコンから電源を供給できて充電切れの心配がないUSB A 接続にも対応している。さらに、NFC搭載のスマートフォン・タブレットであれば、タッチするだけで機器と本製品をペアリング・切断できる。



Bluetooth 会議スピーカーフォン「MM-BTMSP5」
（サンワサプライ）



会議室での使用イメージ（サンワサプライ）

一方、本体は、電源、ペアリングボタンなどが独立しており、操作しやすい設計になっている。マイクミュート、スピーカーミュート機能は直感的に操作できるようになっている。マイクミュートはボタンを押すことで、スピーカーミュートはスピーカーの上に手をかざすことで行える。

本体サイズは、約 W126 x D126 x H34mm で、重

量は約 400g と持ち運びに便利なコンパクトサイズ。バッテリー連続再生/通話最大時間は約 8 時間。付属の USB ケーブルでパソコンまたはお手持ちの AC 充電器（別売）で給電できる。標準価格は 60,000 円（税抜）。

■TeamViewer ジャパン：リモート・アクセスとサポートのソリューションの次世代版「TeamViewer Remote」を発表

（PRTIMES：4月27日）

TeamViewer ジャパン 株式会社 (<https://www.teamviewer.com/ja/>)（東京都千代田区）は、同社が提供するリモート・アクセスとサポートのソリューションの次世代版「TeamViewer Remote」を発表した。

次世代版では、ユーザーエクスペリエンス全体を再設計し、より直感的でモダンな新しいインターフェイスを特徴としている。

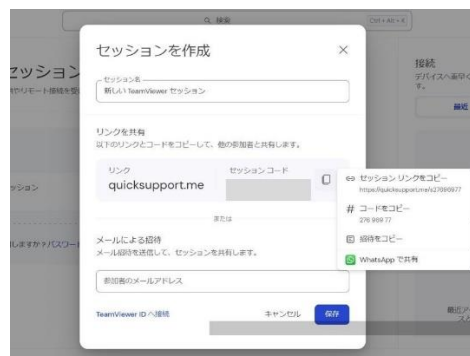


新しいインターフェイス（TeamViewer ジャパン）

また、デスクトップ版とブラウザ版のギャップを解消したウェブクライアントに仕上げ、いずれの版でも全ての機能を提供している形となる。加えて、接続方法は簡素化され、オンラインミーティングに参加するのと同じようにワンクリックで簡単にセッションを開始することができるようになった。

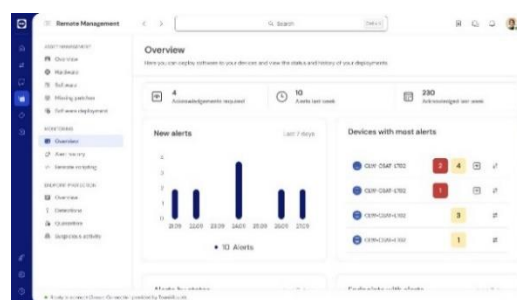
さらに、不正使用防止するためのセキュリティを強化した。そのひとつとしてアカウント作成を義務化した。また、リモートセッションを開始する前に受信先の地理的情報や、電子メールアドレスなどの情報を確

認できるようになり、正当な接続のみを受け入れる正しい判断をユーザーが下せるよう、透明性を向上した。



接続方法を簡素化（TeamViewer ジャパン）

法人のお客様向けには、リモート監視と管理（RMM）がネイティブで追加され、より機能的になった。TeamViewer Remote の RMM には、リモートデバイスとネットワークデバイスの監視、アセットマネジメント、ソフトウェアの展開、パッチマネジメントなどが含まれ、組織のデバイスの管理をシームレスかつ効率的に行うことができる。



リモート監視と管理の TeamViewer Remote をクライアント統合（TeamViewer ジャパン）

今後、TeamViewer 製品ポートフォリオ全体へのシ

シングルアクセスを提供することを見据え、基礎となるソフトウェアアーキテクチャは大規模なリニューアルを行い、主要コンポーネントは TeamViewer のプラットフォームアプローチに沿ったデザインに変更されている。リモート・マネージメントパッケージなど、別途ログインが必要だった機能およびアドオンは、現在では統合され、TeamViewer Remote と同じインターフェイスでアクセスできるようになった。TeamViewer は今後、この新しいソリューションにさらなる機能を追加していく予定となっている。

■ブイキューブ：「テレキューブ」の法人向け定額利用サービスに「ビギナープラン」を提供開始、月 3,000 円から利用可能で、6 ヶ月無料のキャンペーンも実施

(5月15日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube-svc.co.jp/>) (東京都千代田区) と連携し、個室型「テレキューブ」について法人向けに定額で利用できる「ビギナープラン」を提供開始する。



公共空間に設置している防音個室ブース「テレキューブ」
(ブイキューブ)

個室型テレキューブの利用率がコロナ以前の 2020 年 3 月と比較し、2023 年 3 月で設置台数が約 8 倍、

利用時間は約 25 倍と大きく利用が伸びていることを踏まえ、今回ビギナープランを提供開始する。

テレキューブは電源・WiFi を完備し、関東圏、関西圏、東海圏などの駅、商業施設やオフィスビルに 350 台以上設置されている (2023 年 3 月現在)。遮音性・プライバシー保護に優れた個室型ワークブースで、コロナ禍で変化した新しい働き方・コミュニケーション様式によって急速に広まっている Web 会議等で多くのビジネスパーソンに利用されているという。

※テレキューブ法人向け定額プランの詳細：

<https://jp.vcube.com/telecube/public>

■RevComm：AI 搭載オンライン会議解析ツール「MiiTel for Zoom」を「MiiTel Meetings (ミーテルミーティング)」に名称変更、「Microsoft Teams」に対応

(PRWire：5月11日)

株式会社 RevComm (<https://miitel.com/jp/>) (東京都渋谷区) は、同社が提供する、AI 搭載オンライン会議解析ツール「MiiTel for Zoom」を「MiiTel Meetings (ミーテルミーティング)」 (<https://miitel.com/jp/meetings/>) に名称変更、「Microsoft Teams」に対応すると発表。



MiiTel Meetings (RevComm)

今回の名称変更は、これまで Zoom によるオンライン会議の解析ツールとして提供してきた MiiTel for Zoom の各機能を「Microsoft Teams」にも対応する機能拡充の実施に伴うもの。

MiiTel for Zoom は、Zoom での会議に AI による文

字起こしとトーク分析機能を付加することにより、Zoom 会議の可視化、社内共有を可能とし、営業の生産性向上を実現するサービスとして2022年7月に提供開始した。

議事録作成業務の工数削減やオンライン会議分析共有により業務効率向上、セルフコーチングの推進に活用でき、Salesforce などの顧客管理システムとの連携により顧客とのオンライン会議を一見管理することができるツールとして多くのお客様に活用されているという。

2022年10月には文字起こしの全文検索機能を、2022年12月には要約機能(β版)を、2023年3月には音声感情認識機能、要注意商談通知機能をリリースするなど、日々お客様のニーズに合わせアップデートを実施している。

なお、MiiTel Meetings の Microsoft Teams 対応、名称変更に伴い、2023年6月30日までに新規・既存のお客様を対象に、無償提供キャンペーンを実施している。[\(https://miitel.com/jp/meetings/\)](https://miitel.com/jp/meetings/)

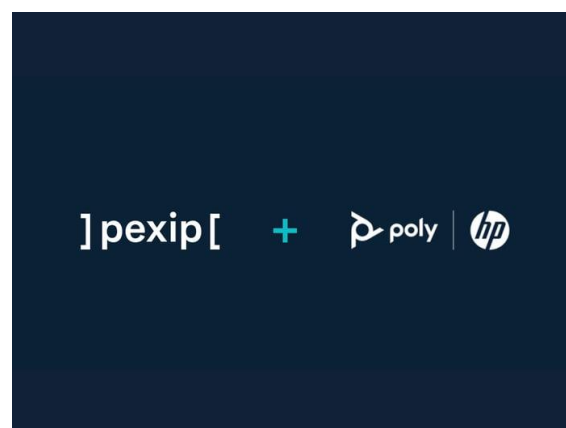
ビジネス動向-海外

■Pexip 社：HP カンパニーである Poly 社との戦略的提携、セキュリティを重視する顧客向けオンプレミス及びクラウドベースソリューションを提供

(5月1日)

Pexip AS (<https://www.pexip.com/>) (ノルウェー・オスロー) は、HP カンパニーである Poly 社 (<https://www.poly.com/>) (米国・カリフォルニア州) との戦略的提携を発表した。

今回の戦略的提携により、Poly 社は Pexip 社のテクノロジーを自社のソリューションに統合し、セキュリティを重視する顧客向けのオンプレミス及びクラウドベースの通信ソリューションを提供開始する。



Pexip と Poly の戦略的提携 (Pexip 社)

(1) 「Poly PrivateConnect powered by Pexip」：強固なセキュリティに守られた、柔軟かつスケラブルな方法で統一された会議エクスペリエンスを提供するビデオテクノロジープラットフォーム。プライベートクラウドあるいはオンプレミスで運用でき、相互運用のためのモジュール機能を使用して「Microsoft Teams」または「Google Meet」にシームレスに接続できる。加えて高度なカスタマイズとインテグレーションのオプションも用意されている。

(2) 「Poly CloudConnect powered by Pexip」：Microsoft Teams、「Google Meet」およびビデオ会議に業界をリードするマルチプラットフォームの相互運用性を提供する。エンドユーザエクスペリエンス、カスタマイズ、管理と制御の容易さに重点を置いた最新のクラウドプラットフォーム上でビデオ会議環境全体を運用する。

(3) 「Poly FedConnect powered by Pexip」：米国連邦政府、各州・地方自治体向けの FedRAMP 認定 SaaS ベースのビデオ会議ソリューション。認定セキュリティに準拠したクラウド環境で、標準ベースのビデオ会議システムから Microsoft Teams との通話を安全に行うことが可能となっている。

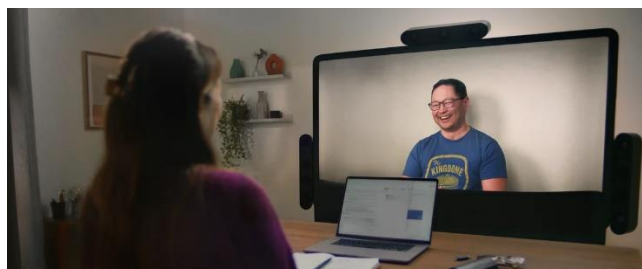
顧客にとっては、強固なセキュリティを維持しながら、どこからでもアクセスできる信頼性の高い高品質のビデオエクスペリエンスが提供されることになる。

Pexip 社にとって、市場への自社のリーチが拡大し、同社のテクノロジーがより幅広いユーザーに提供される形になる。また、Poly 社にとっては、顧客がどこにいても、可能な限り最高のコミュニケーションとコラボレーションのエクスペリエンスを提供するという取り組みを強化するものとなる。

■Google 社：等身大の 3 次元ビデオ会議システム開発プロジェクト「Project Starline」の第二弾プロトタイプを発表

(Google Blog: 5 月 10 日)

Google 社 (<https://www.google.com/>) (米国・カリフォルニア州) は、2021 年に発表された、都市または国が離れていても人々が一緒にいるように感じるのに役立つテクノロジーを開発するプロジェクト「Project Starline」(<https://blog.google/technology/research/project-starline-prototype/>) の第二弾としてよりシンプルなプロトタイプを発表した。



従来のビデオ会議システムに似た形状と大きさ (Google 社)

同社は、世界中のより多くの人々が共有し、協力し、つながるのを支援したいと考えている。Project Starline では、等身大の 3 次元で他の人と話したり、ジェスチャーをしたり、アイコンタクトをしたりできる「魔法の窓」のように機能するテクノロジーを開発している。

このシステムは、高度な AI を使用して、話している人のフォトリアリスティックなモデルを構築し、それを独特のボリューム感と奥行き感のあるライト

フィールドディスプレイに投影する仕組み。まるで目の前にいるかのように、相手のリアルなイメージが生まれるようになっている。

しかし、第一段目のプロトタイプでは、装置自体が部屋全体を占め、話している相手のライブ 3D モデルを作成するために赤外線エミッターや特別なカメラなど複雑なハードウェアが必要だった。結果は目覚ましいものだったが、システムのサイズと複雑さにより、今日の多くのオフィスには持ち込むことが困難だった。

そこで、今回最新のプロトタイプを発表。より従来のビデオ会議システムの形状に似た形に仕上がった。数台の標準的なカメラで高品質でリアルな 3D 画像を生成する新しい AI 技術を開発した。これらの技術の進歩のお陰で、“レストランのブースのサイズ”から“薄型テレビ”までの小型化を実現し、よりオフィスフロアなどで展開しやすくなった。

早期のアクセスプログラムの一環として、これらの新しいプロトタイプを Salesforce、T-Mobile、WeWork と共有し、Project Starline が分散した従業員の接続を維持するのにどのように役立つかについての実際のデータを収集した。

これまでのところ、より強い個人的なつながりを構築し、会議の疲れを軽減し、注意力を高めるのに役立つという有望な結果を見てきたという。

同社としては、Project Starline により、距離がもはやつながりの障壁ではない世界に近づいていると考えている。このプロトタイプは、この目標に向けた最新のステップであり、どこにいても、より多くの人々がつながりを感じられるように支援していくとしている。

※Introducing our New Project Starline Prototype | Google https://youtu.be/obuyCkotJ_s

導入利用動向-国内

■OfficeTV：mk ホームが拠点間常時接続専用のテレビ会議システム「OfficeTV」を導入、在席状況がわかりコミュニケーションが円滑に

(valuepress：5月8日)

株式会社 OfficeTV (<https://officetv.jp/>) (東京都渋谷区) は、同社が提供する拠点間の常時接続専用のテレビ会議システム「OfficeTV」を、2023年5月、mk ホーム株式会社 (<https://www.mk-home.co.jp/>) (千葉県船橋市) が導入したことを発表した。

Mk ホームは、市川市、船橋市、江戸川区、葛飾区、松戸市、柏市、浦安市、鎌ヶ谷市、白井市、習志野市、八千代市、美浜区、花見川区、稲毛区を中心とした売買物件を専門とする不動産会社。

Mk ホームでは、複数の拠点で業務を行っており、電話や SNS などを使用した支店間コミュニケーションに手間を感じていたという。

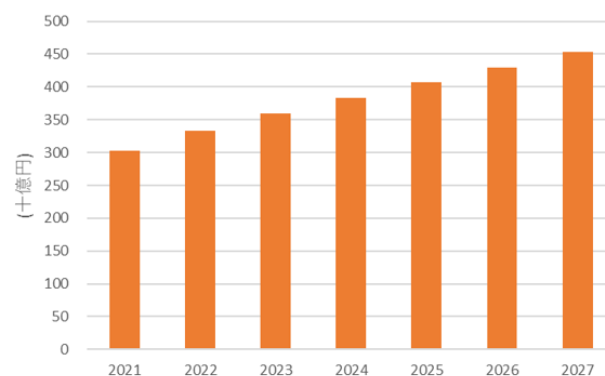
そこで支店間を常時接続する方法を検討しはじめ、OfficeTV の導入コストの安さ、手間の少なさなどから社内デモを実施、試験的に利用した。実際に使ってみる中で、従業員の離席状況などの確認が容易になり、コミュニケーションの円滑化が図れたという。また、小規模な事業所が複数ある会社で、本社から管理ができる利点もあるとしている。

市場動向-国内

■IDC Japan：国内コラボレーティブワークスペース市場予測を発表、2022年の市場規模（売上額ベース）が3,334億5,600万円

(5月10日)

IT 専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (<https://www.idc.com/jp/>) (東京都千代田区) は、国内コラボレーティブワークスペース市場予測を発表した。



国内コラボレーティブワークスペース市場予測、2021年～2027年 (Source: IDC Japan, 5/2023)

2022年の国内コラボレーティブワークスペース市場は、前年比成長率が10%、市場規模（売上額ベース）が3,334億5,600万円となった。同社によると、2022年の同市場は、過去2～3年間で市場を牽引した業務のデジタル化を目的とした新規需要が鈍化した一方で、デジタルワークスペースの活用を前提としたさらなる業務効率化に向けた追加投資によって高い成長で推移したと分析する。

同社が2023年2月に実施した調査では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の収束後に全社的に月1回以上のリモートワークを実施すると回答した企業は、1,000人以上の大企業に絞ると61.7%に上り、ハイブリットワークによる働き方の変化は今後も国内で持続すると予測する。

また、ユーザー企業の投資/注力分野を見ると、今後の IT 投資における強化項目では多様な項目が挙げられた。背景には、企業の関心が単なる業務のデジタル化から、その成果としての生産性向上/従業員の能力開発や連携によるビジネス機会創出などの課題解決への要求に移り、その検討手段が多様化している状況が推察されるという。

IDC では、2023 年以降の国内コラボレーティブワークスペース市場の推移について、国内企業における緊密なシステム間の統合と生産性向上への要求や、法改正を含めたデジタルワークスペースの適用拡大により好調に成長すると予測する。その結果、国内コラボレーティブワークスペース市場は、2022 年～2027 年の年間平均成長率（CAGR）6.4%で推移し、2027 年には 4,537 億 7,400 万円になると予測する。

なお、今回の発表は、IDC が発行したレポート「国内コラボレーティブワークスペース市場予測 2023 年～2027 年」にその詳細が報告されている。本調査レポートでは、国内コラボレーティブワークスペース市場の 2022 年の実績と 2023 年～2027 年の市場予測を提供している。

※レポートについての詳細・購入など：

<https://www.idc.com/jp/research/report-list?document=JPJ49211223>

セミナー・展示会情報

<国内>

■Microsoft Teams Rooms & Neat 製品デモ体験会

日時：5月26日（金）14:00～16:00

会場：日本マイクロソフト本社（品川）

主催：日本マイクロソフト株式会社/Neatframe 株式会社

詳細・申込：<https://neat-japan.com/n/nd604c8208b19>

※Neatframe Inc. CEO Simen Teigre 氏も来日。

■働き方改革サミット

職場における、AI と人のつながりの交差点を考える

日時：5月30日 11:00～12:30

会場：オンライン

主催：ZVC Japan 株式会社

詳細・申込：

<https://click.zoom.us/work-transformation-summit/jp>

■OnLine Collaboration Event

SHURExVTV ジャパンオンラインコラボレーションイベント

日時：6月8日（木）10:00～19:00

会場：バーチャルイベント会場

主催：シュア・ジャパン株式会社、VTV ジャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/2306vtv/>

■最新ハイブリッドミーティングツール体験会&セミナー

日時：5月23日（火）

第1回講演：12:30 受付開始/13:00～15:00

第2回講演：15:00 受付開始/15:30～17:30

会場：ベルサール東京日本橋

主催：バルコ株式会社

展示企業：バルコ株式会社/ソニー株式会社/シャープ株式会社/ヤマハ株式会社/ボーズ合同会社/GN オーディオジャパン株式会社/株式会社ロジクール

詳細・申込：

https://infopages.barco.com/2023_05_WP_JP_CX-50-Roadshows_LP_01_Registration-Page.html

■ブイキューブセミナー情報（5月～6月）

「新しい情報提供の形 メタバース×Web 講演会」「2023 年最新！見えてきた、WebRTC の課題と対策」「ついにブイキューブでも取り扱い開始！ 今大注目の『Zoom Phone』入門講座」など

会場：オンライン/オンデマンド、大阪

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（5月）

「【利用者向け】今月の Webex アップデート活用方法 (43.5)」など

会場：オンライン／オンデマンド（2020 年以降録画）

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNA.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2023年5月15日号おわり

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp